

事業名	近畿自動車道 名古屋神戸線 名古屋西 JCT 菟野～龜山西 JCT		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 三重県三重郡菟野町大字潤田 至) 三重県龜山市安坂山町		延長		1.8 km	
事業概要	新名神高速道路は第二東海自動車道と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。					
H17年度事業化	H6年度都市計画決定			H-年度用地着手	H-年度工事着手	
全体事業費	1,798億円		事業進捗率	2%		供用済延長 0 km
計画交通量	41,100台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.5 (事業) 3.6	総費用 (事業) / (事業全体) 1,507 / 1,542億円 事業費：1,376 / 1,411億円 維持管理費：131 / 131億円	総便益 (事業) / (事業全体) 5,383 / 5,383億円 走行時間短縮便益：4,743 / 4,743億円 走行経費減少便益：499 / 499億円 交通事故減少便益：141 / 141億円	基準年 平成22年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C=3.9 (交通量 +10%)		B/C=3.2 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=3.3 (事業費 +10%)		B/C=3.9 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=3.7 (事業期間 1年)		B/C=3.4 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C等からのアクセスが向上する主要な観光地が存在する</li> <li>・ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連結するルートを構成する</li> <li>・ 緊急輸送道路 名神高速道路 が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する</li> </ul> <p style="text-align: right;">他13項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>近畿自動車道名古屋神戸線（菟野～龜山西 JCT）について、三重県知事より、東名阪自動車道の慢性的渋滞解消事業、名神高速道路とのダブルウェイの構築、産業支援、地域活性化のため事業を継続し、早期完成をお願いされている。 （平成22年11月18日）</p>					
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）のとおり了承。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成20年2月に龜山 JCT～草津田上 I C間が開通し、新たなネットワークを形成。これに伴い、東名阪自動車道の交通量が増加し、渋滞が激しくなる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、設計協議および幅杭設置中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も引き続き、設計協議・用地取得の推進を図る。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。